ワークショップ資料

会って、縫って、笑って、知って

みんなで作って歴史に触れる大きな刺繍

アーティスト　金藤 みなみ

自己紹介

金藤（きんとう） みなみ

kintominami

kintominami.com

1988年徳島県生まれ、東京在住。女子美術大学・多摩美術大学大学院を卒業後、アーティスト・画家としてキャリアをスタート。縫うことを通して傷と尊厳を問う骨太な作風。広野アーティストインレジデンス（福島県、2025年）、「ザ・マスクウーメン」鶴見区民文化センター　サルビアホール（神奈川県、2020年）、「VOCA展2023　現代美術の展望―新しい平面の作家たち―」上野の森美術館（東京都、2023年）、「芸術の四国遍路展」（徳島市立徳島城博物館（徳島県）・藁工ミュージアム（高知県）他巡回）など。

概要

主に、民話や歴史にインスピレーションを得て新しい視点で切り取った手芸作品を作っています。近年は古着・古布・羽根などを用いて、
参加者とともに刺繍をするWorkshopへと展開するようになってきました。

工程

01	02	03
民話収集、語り部や住民との対話	作品スケッチ	素材収集

04	05	06
宣伝・見本作成	ワークショップ・共同刺繍	作品お披露目・交流

工程

民話収集、語り部や住民との対話

作品スケッチ

工程

ワークショップ・共同刺繍

小さなお子様も
使いやすい穴あけ
パンチを使用

工程

作品お披露目・交流

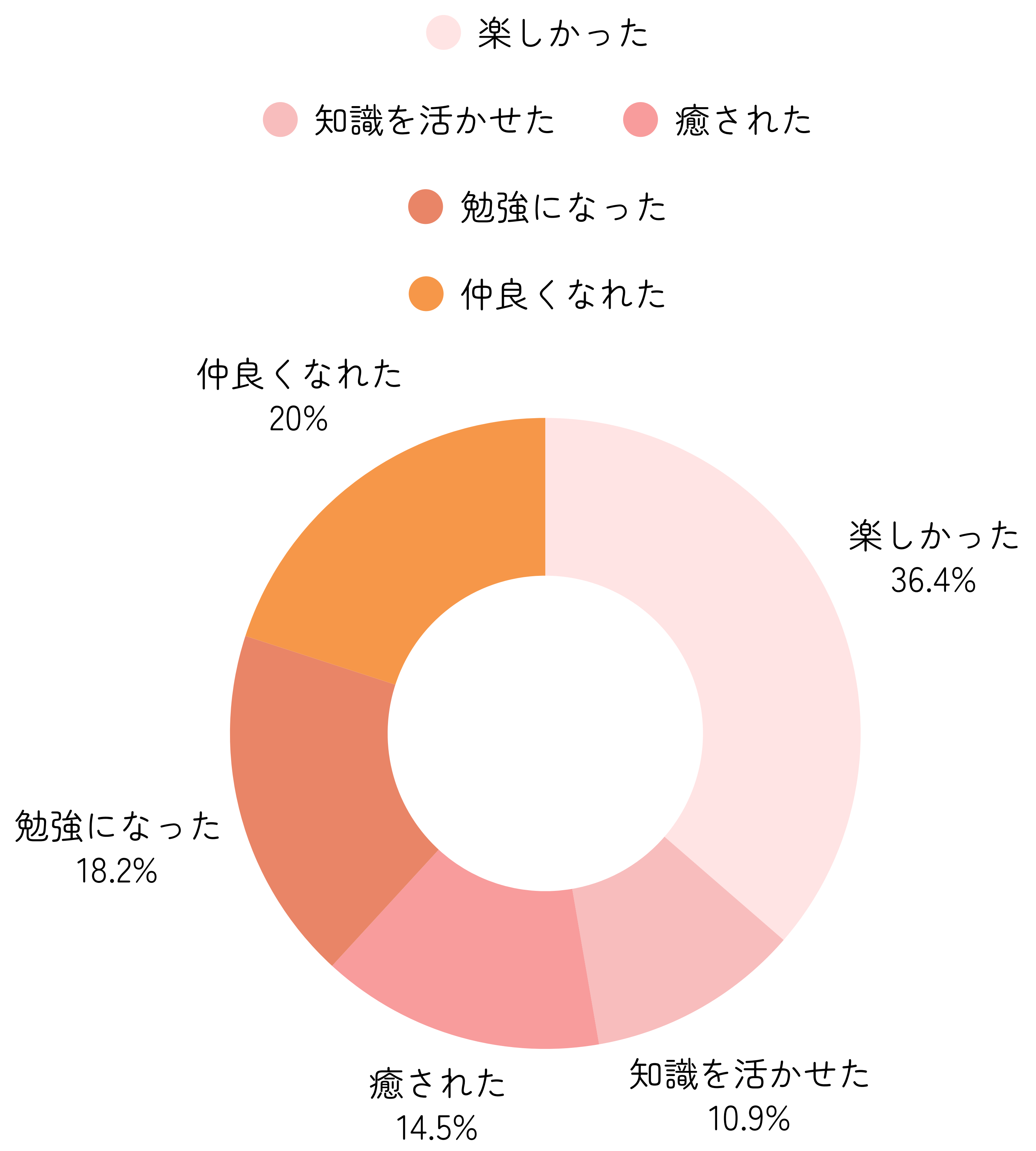
参加者の声

・人と話しながら一つのもの作るって楽しくて良いなって思った

・レベルに合わせて役割分担があるので、昔の手芸の知識が活かせて良かった

・手を動かしてると、気張らずに人と話せてびっくりした

・子どもを大きな作品作りに関わらせてあげられて嬉しそうだった

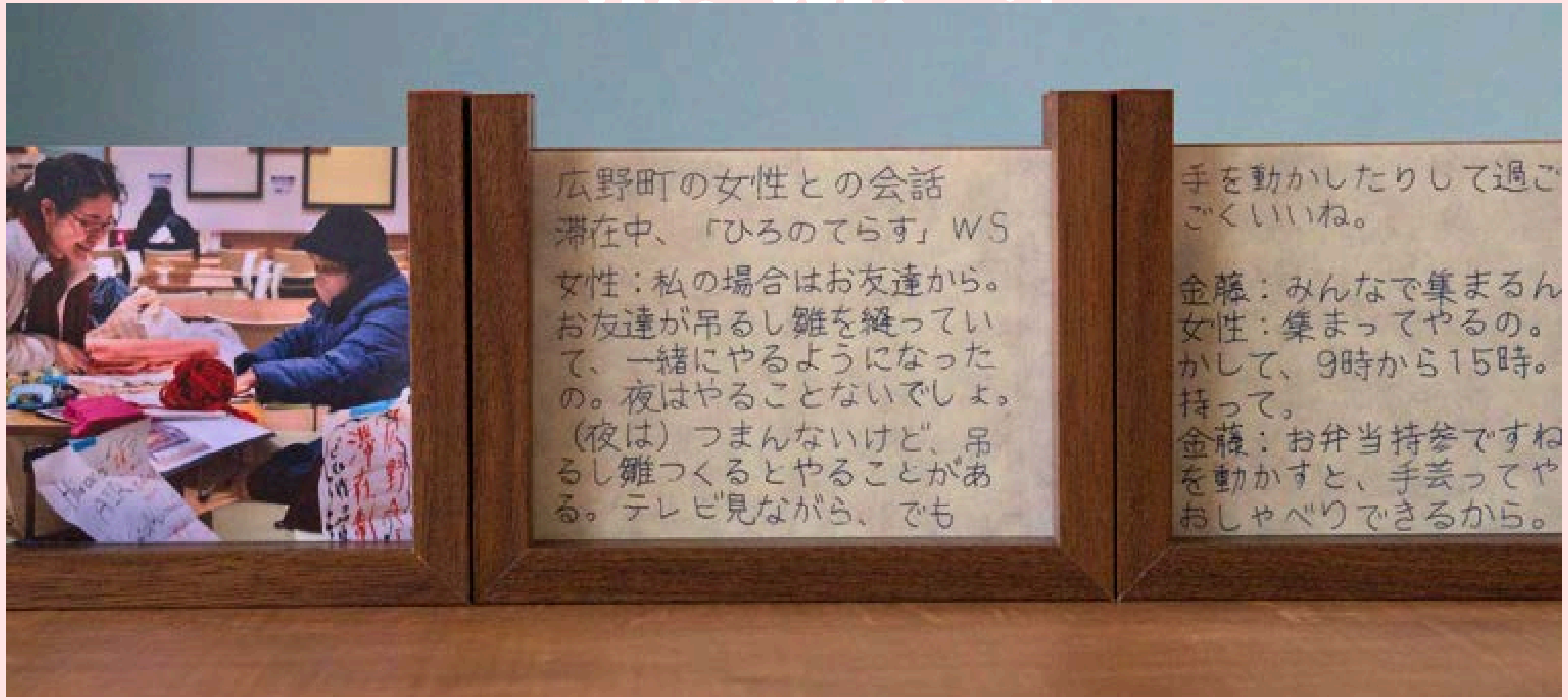


成果発表について

言葉を展示する

刺繍を展示する

言葉を展示する



ワークショップの間に交わされた言葉を展示する（参加者の連絡先をきき、発表については再確認すること。写真展示も可否を確認すること）

刺繍を展示する

ワークショップを経てできた刺繍作品を展示する

ご覧いただきありがとうございました！

会って、縫って、
笑って、知って

みんなで作って歴史に触れる大きな刺繍

アーティスト　金藤 みなみ

2025年3月27日

柔軟な展開

金藤みなみは育休後の制作復帰とともに、主に主婦層や子どもたちに対して地域に根差したワークショップを行ってきました。
参加者の日常に溶け込むような形を目指しているため、1時間で完結する形や、小規模でそれぞれが持って帰ることができる形など、柔軟に展開可能です。